

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1272400928
法人名	有限会社ピウ
事業所名	グループホーム ピウ八幡
所在地	千葉県市原市八幡125-1 (電話) 0436-40-3758

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月26日	評価確定日	5月18日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	8人, 非常勤 7人, 常勤換算 9.8人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての 3 階 ~ 4 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 ~ 22,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費15,000円 おむつ代など実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間5年)	
食材料費	朝食	280 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1,330円			

### (4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	63 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団白金会 白金整形外科病院、永野歯科医院、市原鶴岡病院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

八幡宿駅から徒歩15分のグループホームで開設6年目である。5階建てのビジネスビルを転用し、3,4階がグループホームになっている。1,2階がデイサービスなので、デイとの連携はもちろんのこと、母体である医療法人や他の協力医療機関との連携もスムーズに行われている。職員は地元の人が多いため、地域の情報が入手しやすく入居者と地域との橋渡しが上手に行われており、職員の定着率が非常に高い。研修体制の整備や関係機関との更なる連携などにも意欲的である。これからの活躍が期待されるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入浴時のプライバシーについて指摘があり、すぐにデイサービスの脱衣室にカーテンを取り付けた。全員で評価に取り組む点も改善がなされ、職員の申し送りの徹底や書類の整備も進んできている。入居者の安心や笑顔のためには、職員の異動があまりないようにすることが大切だとの考えで、シフト作成にも気を配っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の反省をふまえ、全職員が意義を理解してからミーティング等で意見を出し合い、管理者がまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	メンバーである地域の人に参加しやすいよう日程が配慮がされ、年4回開催された。特に5月の会議では評価結果を発表し、今後の取り組みについて話し合った。定期的な開催は順調に行われているが、出席者の固定化に伴うマンネリ化防止のためのアイデアを出し合っている段階である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者の暮らしぶりは毎月の近況報告と3ヶ月に1回の広報誌を郵送している。一人ひとりの様子が伝わることで家族が気軽に意見を出しやすいよう配慮している。面会時・電話などを通して相談や要望を受け付け、ホームの運営に反映させる努力をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町会に加入しており、自治会の敬老会や、年2回のフリーマーケットなど、参加を楽しみにしている行事がある。地域を熟知した職員が多く、情報が入りやすいので、入居者と地域の橋渡しがうまく行われている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔・優しさ・言葉使い・挨拶」というわかりやすい理念があり「地域の中で支える」ことは、既に地域の交流などを通じて実践されている。一方で、ホームの理念のなかには、その地域性が組み込まれるまでにはいたっていない。		わかりやすい理念があり、「地域」を意識したサービスが実践されているので、今後はその「地域」の部分が文章化されるとさらに良いと思われる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに掲示されており、全職員が理念を共有している。職員は常に意識しながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会に加入しており、自治会の敬老会や、年2回のフリーマーケットなど、参加を楽しみにしている行事がある。地域を熟知した職員が多く、情報が入りやすいので、入居者と地域の橋渡しがうまく行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年も評価結果が出るとすぐにミーティングで発表し、改善点を話し合った。昨年の反省をふまえ、今回の自己評価は職員が意義を理解してから意見を集約できるよう取り組んだ。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の特性から農繁期をはずし、年4回行った。特に5月の会議では、評価結果を発表し、今後の取り組みについての話し合いが行われた。今後は気楽な雰囲気に参加者を増やすためにお茶会の時間を設けたり、案内やレジュメなどを事前に手渡すなど工夫してみたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市原福祉ネットには年1～2回管理者が出席しており、生活保護担当の福祉事務所との連絡も取り合っている。しかし、事務的な連絡等が多く、サービスの質の向上に繋がるような連携にはいたっていない。		一部の入居者のための話し合いだけではなく、入居者に関わるいくつかの部署との連携をとっていくことも必要と思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月近況報告を小遣い帳のコピーとともに家族に送付している。3ヶ月に1回はデイサービスと一緒の広報誌「ピウ八幡」を送付している。状況に応じて連絡を取り、電話で報告することもあるが、直接会って話したほうが本人の様子もわかり、職員との連携もうまくいくので来訪を促すこともある。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口は重要事項説明書に明記されており、相談はその都度ミーティングを行い対応している。ふだんから職員に対して言いやすい環境ではあるが、今後は家族アンケートなどのような、面会の少ない家族の意見や要望を書面で伝えられるしくみができると更によいと思われる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	夜勤は専門スタッフが担当し、そのスタッフが月に数回日勤帯に入ることで職員間の連携を図り、疲れをたにくいシフトにしている。又、シフト作成後の変更にも柔軟に対応しており、定着率が高い。更にホーム内での職員の担当を半年ごとに固定したことで、入居者に安心した様子が見られるようになった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部の研修は2ヶ月に1回くらい参加しているが、管理者が中心である。法人もアンケートを実施し、参加しやすい時間帯を把握、参加数増加を目指しているが、計画的な研修の実施や研修機会の平等な提供までには至っていない。		研修後は報告書を作成し、全員に回覧したりミーティングで発表しているが、さらに年間計画を立て、職員に平等な研修機会の提供と計画的な人材育成を図ることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われる中核地域生活支援センター主催の会議などに参加しているが、管理者の交流も事務的なことが多く、ネットワークの十分な活用には至っていない。		管理者・職員ともに同業他社と定期的な交流や意見交換する機会作りが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族とともに見学に来てもらい、入所前に数回面接している。また、自宅で生活歴や家族関係をつかむ事が重要であると認識し、自宅を訪問し聞き取りをしている。1,2階に併設のデイサービスを利用してからの入居もあり、デイと兼務の職員からの情報も集め、徐々に馴染めるよう対応している。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除・水やり・食事の準備や後片付けなどを職員と共にしている。入居者から野菜の切り方を教わったり、励ましの言葉をかけられたりと、職員が励まされることも多い。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から生活歴を聞くとともに、ホームでの本人との会話や関わりの中で、意向の把握に努めている。意思疎通の困難な入居者に対しては、家族から状況を聞くことや、ホームでの行動の観察から理解できるようにしている。特にホームとしては、入居者のできる事に目を向けた支援を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを実施することにより入居者の状態の確認をし、本人・家族の希望を聞き、関係者から情報を得るようにしている。その後、カンファレンスを開き介護計画を作成している。作成後には、家族に介護計画の内容を説明し同意を得ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月毎の見直し時には、職員間で介護計画の達成度・評価が話し合われる。その評価結果と入居者の状態の変化を確認の上、新たな計画書を作成している。見直し前に状況の変化が生じた場合には、随時対応している。今後は、見直し時に家族との話し合いを持ち、その意見も反映した計画書が作成されるとさらによいと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の母体である白金整形外科病院をはじめ、他の協力医療機関との間で、24時間対応の体制が整っている。併設しているデイサービスとの行事による交流や、希望により運動機器を利用したパワーリハビリにも参加することができる。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を優先し、希望の医療機関のない入居者へは協力病院への送迎を含めた受診支援を行っている。ホームへの医師の往診は行われていないが、週3～4回白金整形外科からの看護師の訪問がある。また、緊急時には、同ビルに併設するデイサービスの看護師の対応も可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の入居者への対応の方針が文書化され、家族の同意を得ている。また、緊急時に備えて医師や看護師の対応の体制も整えられている。ホームとして、“できる限り家族の一員として職員全員で支援すること”を目指している。本年度は終末期の事例もあり、その際には、関係者との話し合いで支援の方針が決められ、全員でその方針を共有した。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者へのプライバシーの配慮は、職員間でミーティング等の機会を利用して周知している。本年度は浴室にカーテンをかけて入浴時のプライバシーを守るという改善がみられた。また、入居者の記録は所定の場所に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の会話の中で本人のしたいことの把握に努めている。基本的な一日の流れはあるが、本人のペースに合わせて、起床時間の変更や居室での食事の希望にも柔軟に対応している。また、個別の外出(買い物、理美容室への送迎等)も希望にそって支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材・メニューの作成は業者に委託しているが、入居者の好みに合わせて調理方法を変える工夫もしている。月に一度は入居者の希望を反映した外食又は行事食を実施している。職員も入居者との会話を心がけて一緒に食事をとっている。また、食事の準備や後片付けは職員と一緒にやっている		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室がデイサービスと共用のため、入浴時間は午後2～5時となっている。基本的に週3回だが本人の希望により柔軟に対応している。個室浴槽か共同浴場の選択も出来る。また、入浴日を男性、女性で分けており、プライバシーにも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や性別などを考慮し、食事の後片付け、掃除、水やりなどさまざまな役割の支援をしている。また、トランプ・ジグソーパズルなども楽しんでいる。夏祭り、クリスマスなどの年間行事を計画し、デイサービスの参加者や入居者の家族との交流の場となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近隣の散歩やスーパーの買い物など日常的に外出している。多くの入居者は地域のフリーマーケットに行くことを楽しみにしており、地域住民との交流の機会となっている。また、お花見や紅葉狩りなど季節に合わせた外出や、近隣の観光スポットを訪れたりすることも毎年計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階を含め全ての出入口は日中は施錠していない。各ユニットの玄関と非常階段のドアにはセンサーをつけたり、暖簾に鈴をつけるなど入居者の状態に合わせて安全に配慮している。また、3階のデッキに行く際には、必ず職員が同行するようにしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(内1回は消防署の指導のもと)の避難訓練をデイサービスと合同で実施している。ホームが3階、4階であるため、安全を確保するための防火ドアを設置し、まず非常階段に避難することになっている。今後は、ホーム単独や夜間を想定した訓練が計画され、更なる災害対策と地域の協力への働きかけが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材を委託している業者の栄養士がメニューを作成し、カロリーや塩分量の制限のある入居者の情報は職員間で申し送りしている。水分は食事やおやつ以外の時間以外でも自由に摂取できるよう居間にはポットを用意し、個人記録表に食事と水分摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の両側には窓があり、自然の光や遠くの景色も見え開放感のある造りとなっている。入居者はこのスペースで日中を過ごすことが多く、テレビを見たり、レクリエーションを楽しむ場となっている。3階にはデッキがあり、花を植えたり、洗濯物を干したりと生活感がある。トイレの場所には張り紙をし、入居者にわかりやすいように工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッド・クロゼット・エアコンが備えつけてあり、入居者にわかりやすいように手作りの表札が入口に付けられている。使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込むことができる。また、家族が希望すれば、居室で宿泊することも可能である。		